令和８年神奈川県議会第１回定例会　デジタル・新産業・健康特別委員会

令和８年３月 10 日

◆鈴木ひでし委員
　最初に、未病とヘルスケア・ニューフロンティア、最初に目指すものというのは健康寿命の推進、また延伸でいいのかな。

◎政策局参事監［ヘルスケア・イノベーション担当］
　先ほどから、他の委員の先生方からも御質問があったとおり、これは実は産業政策と健康医療政策両方の目的を持っているというところが、ほかの他県がやっている政策とは全く異なるというところが、我々の持っているこのヘルスケア・ニューフロンティアと。
　最終目的は、皆さんの住んでいる、健康寿命の延伸を目指すというところは当然あるんですが、その間にやはり県内の産業を活性化していく、その目的がもう一つ大きな目的があるというところが我々の政策の特徴です。

◆鈴木ひでし委員
　でも、政策局参事監さん、そういう意味であるなら、今私ぱっと見たんだけれども、さっきから先行会派の方が健康寿命なんて少しも伸びていないじゃんという話でしたよね。確かにあなた方の言うのもそうなんだろうなと思うんだけれども、かながわ健康プラン 21 ってあるじゃん。これ、あなた方、健康寿命の最終的な目標なんて載っていないよね。いきなりここのところに女性が 74.97 歳、男性が 73.15 歳しか載っていなくて、ここに載っかっている何か目標一覧のところだって全部横棒になっている。俺が持っているデータがいけないのかな。何でこれ書かない。いや、書いてある、あなたのデータが違うんだよというならそれでいいですよ。

◎健康増進課長
　今御覧いただいている健康プランが令和６年３月に策定しているものですが、当時の令和６年３月時点では今直近で把握している令和４年の健康寿命の数値が出ていませんでした。そのため、令和４年の数値が出た時点で基準値を設けるというところで、令和６年３月に策定したこの目標一覧にはバーになっているところです。

◆鈴木ひでし委員
　だって、それっておかしくない。あなた方、さっきから答弁している、そもそも市町村の事業だとしたら、市町村の事業の健康寿命を伸ばすためには出っ込み引っ込みあるわけだよね。それをどのようにするかということはまず戦略的になきゃおかしいじゃないか。それは、４年だか５年だか６年だか知らないけれども、戦略そのもの自体あなた方言っていることが、何を目標にしてそれを立ててこの事業なんかがあるんだというところに、あなた答えたらおかしい話だよ、だって。目標がきちっと定まって、５年後なり６年後、10 年後はこうなります

と。また、来年でもいいよ、再来年でも。載っていないんだよ、ここに。それで、あなた方さっきから答弁、ああだこうだって答弁しているわけだよ。私、聞いていて笑っちゃうなと思って。だって、そもそも目標のないところにこれやりました、あれやりましたで御苦労さん、それで終わりじゃん。普通、企業だってどこだって、あなた方、事業ここでもって、何だ、200 億円近くの金を 10 年間で使っているんだから、何でこんなことさえも出てこないの。それが、あなた方の今の未病とヘルスケア・ニューフロンティアというところの姿ですよ。まずそれ指摘しておきますよ。常任じゃないから毎回言うけれども、この特別委員会、常任じゃないからこれ言わないけれども、せめて目標ぐらい出しなさいよ、ここに。大目標がそうなんだから、そこに対してどうなんだというようなものがなかったら、全部あなた方の答弁ってみんなむなしいものになるよ。これ、ここでもってやったって、税金かけてやって。これまず一つお願いをしたいと思います。

その中でもう一つは、私見ていて思ったのは、これヘルスケア・ニューフロンティアと未病でどれだけプロジェクトってあるの。プロジェクトと言っちゃいけないのか。事業って書いてあるね、あなた方の次からで、この未病女子対策推進事業とかあるじゃないですか。こういうプロジェクトとか。また事業ってどれぐらいあるの、これ。いいや、いいや。いいよ、もう時間がないから。要は、あなた方のこれが姿なんだよ。何なのかというと、目標とそれに対するどういうアクセスをするかというプロジェクトがないから、要するに何本もあって、それの総括は何もなされないままだらだらとくるとこういうことになるということよ。最初にこれだけ言わせていただきたいと思ったんだよ。それは、90 何本だ、何本って、じゃ端からどんなような検証なんだか言ってくださいと言えないでしょう、多分今時点で。ここを見ていたって、例えば未病対策の普及事業の子供の疾病、未病対策一つ見たって、こういうのが３年の間これだけのことをやりましたと言って、この事業の最終目標と何がつながっているのということでしょう、本来なら。それで、幾つになりました、幼稚園にはどこどこのところへ行ってこういったことをやりましたと言ったって、だから何なのという話にならない。だから、要するに、元からそういうものはないんだから、それに対してきちっとしたピラミッド型のそういう積み上げていくようなものがないからこういうふうになるんだよ、あなた方の施策って毎回。ロボットとそっくりだよ。十数年前から何も変わらないって。ホームページ見たって、相も変わらずロボットが一生懸命何か知らないけれども動いている。もう悲しくなってきた、見てね。これと同じ。未病だって、ヘルスケア・ニューフロンティアにしたってこのような形だと私は思いましたので、ぜひともその点お願いをしたいと思います。

さて、３点目。この１年間の何を目標に取組を進めてきたんですか。１年間ですよ。長い期間、何を目標に取組を進めてきたんですか。まあいいや。未病指標でしょう、しっかりやってきたのは。そうじゃないの。

◎政策局参事監［特定課題担当］

未病指標につきましては、今年度、民間のＰＨＩの連携、さらには県警の高齢者の運転免許講習での御案内、あと今年度、市町村への特定健診の案内と、行政施策でしっかりと未病指標を使うと。これを仕組みとして具体化しつつ、かつ未

病指標を県だけが使うのではなくて、民間のＰＨＩでも使えるような、そういった協議を進めてきているというところでございます。

◆鈴木ひでし委員
　そもそも県民は何人ぐらい参加しているんですか。

◎政策局参事監［特定課題担当］
　2024 年度の末のところですと、未病指標でいうと 50 万人程度を測定するとなります。また、今年度、先ほど申し上げました行政施策の展開のところでは、例えば今年度ですと二俣川の運転免許のほうに来ている 10 万人ほど、この方々には未病指標の測定のチラシを御案内しながら、例えば認知機能ですとか、こういったものを免許更新の間等で測定してもらうと、こういった御案内を進めているところでございます。

◆鈴木ひでし委員
　私が聞いているのは、未病指標に参加したというんじゃなくて、改善とかいろいろしているわけでしょう、この１年間。それにどれぐらいの県民の人が参加したんですかという話を聞いているんだよ。五十何万人とか何とかじゃなくて、そういう華々しいお話じゃなくて、いろいろプログラムで改善しなきゃならないじゃない。だから、この１年間でどれぐらいの県民の方が参加したんですかって聞いているんです。

◎政策局参事監［特定課題担当］
　当初の事業の一例になりますけれども、例えば団地、こちらのほうのコミュニティーで、先ほどのような認知症の未病改善、運動教室に加えて、栄養プログラムを組み上げたりですとか、そういった活動のところは 100 人規模とかで我々のほうは実証をやっているところでございます。また、市町村との連携のところ、先ほど申し上げた４市町村、こういったところでは１市町村 15 人からのそのくらいの規模でそういったモデル事業の研修等をしているというところでございます。

◆鈴木ひでし委員
　私は、先ほど先行会派の方と社会実装のことをやり取りされていた。私、そんな小難しい話じゃないと思うよ。何なのかって県民の方が誰でも使えて、誰でも知っているということです、簡単なことを言えば。ところが、今お話しいただいた 100 人程度のもの、五十何万人かどうか私は知らない。それはどのような形で使われているのか知りませんよ。だけれども、その五十何万人の人がそれだけあるんならば、せめて私の耳には、失礼ですが、その周りの方たちに未病指標なんてこんな使ってよかったよぐらいな話あってもおかしくないじゃない、だって。それが、私なんか全然聞いたことないよ。だから、私は、社会実装とさっきの先行会派の方もおっしゃっていたけれども、誰もが使って誰もが知っているというものには程遠いんだという中でもって、景気いい話が五十何万とか何と

かってどんどん出てくるけれども、それは未病指標として、だから何なんだという話にならないかと私は心配をしていると。それをまず、今それ以上言ってみてもしようがない。私がすごく心配するのは、その数百人規模、どこかの団地か何かでもってやられたと。だけれども、大変に、やっぱりそうというのは、高齢者から若い方までいらっしゃる中で、そういう実証実験だけでいいのかというものはあるということだけ指摘しておきたいと思います。

その中で、私も昨年も特別委員会でも触れましたけれども、これから私もさっき言いました未病指標もひっくるめて、県民の早い話が未病というものを定着するために、私はもうそもそもしっかりとしたロードマップをつくったほうがいいんじゃないのかと、ゴールに向けてね。私はロボットのほうにも言って、一応知事からはロードマップをきちっとつくってやりますと。私はもう、あのときにも一般質問のイントロでも言ったけれども、ベンチャーとか何とかというんだったら、もっと市町村でいろいろ爆発して、おかげさまでこうなってこうなりましたなんて、どこにあるんですかと私言わせていただいた。そういうのがあるんだったらば、もう一度やっぱりロードマップをつくって、先ほど言った目標から始まって、どこまで今来ているのかというふうなことを県民にしっかり示していくべきだと思いますけれども、いかがですか。

◎政策局参事監［特定課題担当］

まず、総合計画、グランドデザインの中で、県全体の政策の中で未病等をどう捉えて、各施策をどういうふうに推進するかと、ここのロードマップのほうはしっかりと推進していきたいと思っております。

また、その具体のアクションのところにつきましては、当然個別のプロジェクト、個別の地域にこれを踏まえながら推進することを考えていまして、例えば先ほど申し上げました健康団地での実証と、こういったものを今年度、未病指標を使いながらデータエビデンス、例えば半年間やったときの効果測定、こういったものをやってきております。これの趣旨としましては、新しい方々が参加するときに、どういったものがあれば参加する気になるかというところを我々検証する中で、そういった取組の効果の可視化を、これは御本人のフィードバックもありますけれども、周囲への波及、こういうものを進めながら今後、来年度以降そういった健康団地の活動も進めていくというところを今進めているところでございます。

◆鈴木ひでし委員

今の健康団地とか何とかというのもそうだけれども、それじゃなくて、何も健康団地だけやらなくたっていいじゃない、別に一般の人たちを巻き込んで。私は正直言って、5点目になるのか、広報戦略だと思うよ。知事か何かしっかり出て、こういうものがあって皆さんに使いましょうみたいなものをどこかでもやればいいんだよ。広報戦略も、考えたって言ってまた出てくるのは、やれホームページだ、県のたよりだ。そうじゃないじゃん。それ使ってとってもいいものなんだよというものをアピールする広報力がなさ過ぎるんだよ。あなた方は、いつも見ているけれども。

とんでもない話になっちゃったけれども、その広報という中でもう一つこの未病指標というのを広げていかないと、私は本当に広まっていくのは大変に厳しいというふうに思って見ているんですよ。何なのかと、今言ったように、あなた方だけで分かっているから。申し訳ないけれども、さっきからいろいろ答弁聞いていること、半分分からないもの。物を見たことないし、未病指標って見せてもらいましたよ。だけれども、それがどうなるかってやったことない。そういう中で、もっともっと広報とかそういうところに力を入れて、そんなかなチャンＴＶとかだけ、そんなんじゃなくて、民放か何かで一発予算しっかりかけてやるなり何なりしないと広まっていかないだろうと私は思ったもので、ぜひともお願いしたいというふうに思います。

その中で、私最後に、未病とまたヘルスケア・ニューフロンティア、私も長年こうやってお付き合いをして、一つのまとめみたいな話をさせていただいた。その中で、私が繰り返すようだけれども、私も一般質問のイントロで言ったけれども、やっぱり多くの政策はこれから、皆さん方やっているけれども、ぜひとも県職員自らしっかりとしたビジョンを持っていただきたい。そして、未病についても、さっき言ったその目標に向かってどういうビジョンを持つのか、そして中長期的な俯瞰的なやっぱり方針を持った上で、やはり県民とか企業に発信する、そういうバネをしっかり持っていただきたいというふうに思っています。

なぜ私がこんなことを言うのかというと、あのときにアップルのお話をさせていただいた。やはり、知事がどんなにこうやる、ああやると言っていても、失礼ですが、手足となってしっかりとしたそれを施策にしてくださるというのは県の職員の方々で、それで、見ているとやっぱり、未病やまたヘルスケア・ニューフロンティアの方って、中では優秀で一生懸命やってくださると思うよ。そこから１歩出たところに、その開かずの窓を開けてほしい。私も分からないんだよ、中は。今もいろんなね、産業課長さんなんかもいろいろさっきからＡＩを使って。私は、ＡＩを使ってなんて、生成ＡＩの時代なんてもう終わってくると思うよ。なぜなら、もうフィジカルＡＩでもって、昨日なんかもニュースで出たけれども、ちょっとまだ時間があるから、190 万円ぐらいだったじゃない、中国のフィジカルＡＩなんか。俺も買う。これは失礼ですけれども、あなた方未病、未病なんて言っているけれども、ああいうロボットがちょっと持ち上げたら、もうその人の体重からＢＭＩから全部出て、なおかつ、この場でもって栄養なんか、あなた栄養がすごく過多ですよとか、もうちょっと野菜取ったほうがいいですよと、この健康 21 に書いてあるようなことを、最後のページに書いてあるようなことを、歯と口腔とか、またよい睡眠でとか、こんなのもうどんどん要するにアプローチや、またいろんなことどんどんできてきている。そういう中でもって、いつまでもあなた方未病、未病と言って、そちらも生成ＡＩで何々なんていうようなことの時代はもう間もなく私終わると思いますよ。そういう意味で、俯瞰をして中長期を見てやらないと、本当に私は厳しい状況になっていくんじゃないかと心配したので、うるさいようですけれども、お話をさせていただきました。

そして、最後に、地域活性化担当課長が、さっき何だ、未病改善じゃないが、何だっけ、あそこの言っていた、私が決算でもって散々言った、相も変わらずま

た何か下に映してどうのこうの、そんなこといつまでやったって人来ませんよ、私言っておくけれども。せっかくここでお会いしたからあなたに言っておくけれども、その横にいた、今帰られたＳＨＩの方もそうだよ。また何か言っているけれども、どうするんだと、４億円もかけた金を。こういう一つ一つ点検していって、どうか、紙でこうやって出てきたことだけでもって審議というんじゃなくて、ここから皆さん方はこういうふうにしたんだというような、新しいもうちょっと俯瞰したような資料を出していただきたいということをお願いして質問を終わります。